

各大学院が修了者に備えさせるべき能力

専門性に加え、

- ・最先端の知にアクセスする能力
- ・自ら課題を発見し設定する力
- ・自ら仮説を構築し、検証する力
- ・社会的・経済的価値を判断・創出する能力
- ・倫理観
- ・マネジメント能力
- ・高度な英語力を含むグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力 など

質保証 の観点

大学院の修了に関しては、**学位により質保証**がされているため、以下のような**基本的な観
点のチェックのみ**にとどめる。

【基本的な観点の例】

- 必置教員の配置等の法令適合性 ※大学全体のデータプラットフォーム上で確認
- 公表事項（学位論文等）の確実な公表 ● 適切な学位審査に必要となる体制整備
- 適切な学位審査基準の設定 ● 内部質保証システムの整備 など

質向上 の観点

修了者に必要とされる能力を身に付けさせるため、以下のような重要な取組を進め、かつ、**学生の満足度が高く、また、研究を含め、社会において活躍している人材の輩出ができており、教育改善に関する内部質保証が確実に機能しているところを高く評価**する。また、**数値的指標と自由記述を組み合わせ**、柔軟かつ評価負担の少ない方法で評価を実施する。

【重要な取り組みの例】

- 高水準の研究活動に豊富に接し、自立的に研究活動を行うための考え方を早期から身に付けさせるため、博士前期課程の段階から一人の学生に対しトップレベルの研究者複数人で指導を実施
- 国際頭脳循環の中で活躍するための国際性の涵養を目的とした在学中の留学支援等
- 社会的価値を判断・創出する力を涵養するための実践型カリキュラムの構築
- 教員の教育研究活動時間の確保
- 高水準な研究環境を学生に提供するためのトップレベル研究拠点の形成
- 多角的な視点を学生に提供するための研究機関・企業等からの教員の受入れ

視
点
②
視
点
③

質向上の観点：評価の視点の整理（案）

大学院教育の最終目標

評価の視点①

修了者が大学院で身に付けた能力を活かして社会の多様なフィールドをリードしている

最終目標の達成に必要となるポイント

評価の視点② 大学院で身に付けた個々の能力が活かされていること

高度な研究力

実践力

リーダーシップ

国際性

...

能力を伸長
させる取組

能力を伸長
させる取組

能力を伸長
させる取組

能力を伸長
させる取組

...

学生の能力を伸長させるための教育研究環境の整備 評価の視点③

質保証（必置教員の配置等）

質向上の観点：評価書における記載のイメージ

質向上の観点での評価書を提出する場合、各研究科において「**修了者に備えさせるべき能力**」を明確化した上で、評価の視点①～③に沿って、**研究科における取組やその成果**について、いくつかの**代表例**を示しながら記載することを想定。

○ 評価書における記載の例 ※現時点のイメージ

評価の視点①：修了者が大学院で身に付けた能力を活かして社会の多様なフィールドをリードしているか

	代表例			参考情報 (全体実績等)
	在学時の研究科における評価	修了後の所属先における評価・実績	現在の修了者本人の自己評価	
修了者A (博士)	本研究科において身に付けるべき創出力や国際性について、レベル4（学内評価ルーブリックにおける最高レベル）を達成しており、また、人間力や未来ニーズの顕在化と実践する力についても…	<p>【評価】 高い研究力を有し、●●分野における最先端の研究成果を多数創出している。 また、本学と○○大学における国際共同プロジェクトにおいてもワーキングチームのリーダーとして議論をリードし…</p> <p>【代表的な実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ～～～, Science, … (2023) ・ ～～～, Nature, … (2025) 	<p>大学院において、複数の教員による綿密な指導のもとで、最先端の研究設備を用いた研究の経験を積んだことにより、●●分野において～～という研究手法の開発をリードするポジションになれたと感じている。 また、大学院在籍時に大学からの支援を受けて半年の交換留学に参加したことで…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 修了者のアカデミアへの就職率 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○% ◆ 修了者の企業への就職率 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○% ◆ 修了者（社会人学生除く）の就職後の平均給与 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○円（学部卒の同世代と比較し××%高い） ◆ 社会人学生の修了後の平均給与上昇率 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○%
修了者B (専門職)	本研究科において身に付けるべき創出力や未来ニーズの顕在化と実践する力について、レベル4を達成しており、また、人間力や国際性についても…	<p>【評価】 大学院において身に付けた○○スキルを活かし、社内プロジェクトにおいて活躍。 また、弊社と○○大学における共同開発においても積極的に大学との調整を主導し…</p>	<p>大学院において○○スキルを身に付けたことが評価され、社内において製品開発を主導する立場に異動。 また、大学院時代の経験を活かして○○大学との共同開発においてもリーダーシップを発揮しており…</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 派遣元企業の満足度 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○%

※最大○名まで記載

質向上の観点：評価書における記載のイメージ

○ 評価書における記載の例 ※現時点のイメージ

評価の視点②：大学院で身に付けた個々の能力が活かされているか

修了者が社会で活躍するための能力に直接的に結びつく大学の取組

<大学院で身に付ける能力>

a. 国際頭脳循環の中で研究者として活躍するための国際性

【大学・研究科における取組内容】

△△大学との交流協定に基づき、毎年〇人の学生を派遣。また、派遣時には渡航費及び滞在中の生活費としてXX万円を支給し…

	代表例			全体の実績
	海外経験	伸長度	国際共著 (PIのみ) ※在学時～修了後●年以内	
修了者A (博士)	△△大学に●年●月～ ×年×月まで滞在	海外経験やその後の論文指導 の中で専門分野の英語力はネ イティブレベルまで上昇。…	<ul style="list-style-type: none"> • ~~~, Science XXX, YYYY-ZZZZ (2023) • ~~~, Nature, AAA, BBB 	◆海外派遣 <ul style="list-style-type: none"> • 1年以上 ○件 • 半年～1年 ○件 • 3～6カ月 ○件 • 1～3カ月 ○件 • 1カ月以内 ○件
修了者B (博士)	…	…	…	

大学の取組による学生の変容を表す記述

大学の取組を通じて得られた能力を修了者が社会で活かしていることを表す記述

修了者の社会での活躍を表す記述 (数値含む)

b. □□分野における社会的価値を判断・創出する力

【大学・研究科における取組内容】

□□分野において今後●●が必要とされる見込みが高いことを踏まえ、連携企業が提供する社会課題をベースにスキルの実践を行う演習を提供。また、講義については夜間、実践演習は土日開講とし、社会人学生が学びやすいカリキュラムを構築。

	代表例			全体の実績
	伸長度	雇用者からの評価	人事評価・給与への反映	
修了者A (専門職)	●●スキルについて全く知らない状態から社会で実践できるまでに上達	大学院において身に付けた●●スキルを活かし、社内プロジェクトにおいて活躍。	修了後××に昇格し、入学前と比べ平均給与が▲▲円上昇	◆入学前と修了後●カ月を比較した平均給与上昇率 <ul style="list-style-type: none"> • ○% ◆派遣元企業の満足度 <ul style="list-style-type: none"> • ○%
修了者B (専門職)	…	…	…	

質向上の観点：評価書における記載のイメージ

○ 評価書における記載の例 ※現時点のイメージ

評価の視点③：学生の能力を伸ばさせるための教育研究環境の整備

a. 教員の教育研究活動時間の確保

【大学・研究科における取組内容】

研究科内会議の統廃合を進め、○件の会議体を廃止。また、留学生受け入れに係る事務支援組織を新設し、ビザ手続きや国内での生活支援等に係る対応を一元化。その他、経費申請に係る事務システムについても…

代表例		教育研究活動時間割合	全体の実績
	事務負担軽減の状況		
教員A	1カ月当たりの会議数が前年度に比べ○件減少。 (約～～時間/月の削減)	××% → ○○% (令和●年 → 令和▲年)	◆研究科全体での教育研究活動時間割合 ・ ○○% (前年度：××%) ◆若手教員の総年間教育研究活動時間 ・ ○○% (前年度：××%)
教員B	留学生のビザ手続きや、日本での住居確保支援が軽減された。 (これまでは留学生一人当たりおおよそ○日の負担)	××% → ○○% (令和●年 → 令和▲年)	

b. 社会人学生が学修しやすくなるための環境の整備

【大学・研究科における取組内容】

勤務時間に配慮した授業時間を設定するとともに、担当教員に対しては給与面でのインセンティブを措置（取組A）。また、サテライト・遠隔授業システムを整備し、○%の授業科目において導入（取組B）。加えて短期コースを設定し…

教育研究環境の変化を表す記述

代表例		取組の実施による効果	全体の実績
	取組実施状況		
取組A：社会人に配慮した勤務時間設定	必修科目30単位のうち●単位について18時以降に開講。 また、～～実技演習については隔週土曜日の実施とし…	・ 対象授業Aにおける学生の満足度： ○○% (前年度：××%) ・ 対象授業Aの受講者数： ○○人 (前年度：××人)	◆研究科における学生の満足度 ・ ○○% (前年度：××%) ◆社会人の入学希望者数 ・ ○○人 (前年度：××人)
取組B：遠隔授業の導入	…	…	